

【神学部】

◆ DP ◆

1. 神学を学ぶための基礎力を修得している
2. 大学生に相応しい基礎力を修得している
3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践の基本的知識を修得している
4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している
5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる
6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している
7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている
8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている
9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践、思想・文化、諸宗教のいずれかについて発展的知識を修得している
10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる
11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている
12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている
13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる

◆ CP ◆

大学生に相応した基礎力の修得（キリスト教教育科目群／言語教育科目群／基礎教育科目群）

- * 神学部で学ぶための基礎知識を修得している
- * キリスト教、人権問題、メソジストの伝統と神学部について基本的な知識を修得している
- * 英語の基礎力を修得している
- * 独語の基礎力を修得している
- * ワープロ、表計算、提案用PCソフトを用いることができる
- * レポート・論文を書くための基礎力を修得している
- * プレゼンテーションをすることができる
- * 文献講読の基礎力を修得している

キリスト教神学を学ぶための基礎的知識、技能、関心の修得（専門基礎科目群）

- * 旧約聖書について基本的知識を修得している
- * 新約聖書について基本的知識を修得している
- * キリスト教の歴史について基本的知識を修得している
- * キリスト教の教理について基本的知識を修得している
- * キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について基本的知識を修得している
- * 宗教一般について基本的知識を修得している
- * キリスト教芸術について基本的知識を修得している
- * キリスト教思想・文化について基本的知識を修得している
- * キリスト教の古典語について基本的知識を修得している
- * 英語あるいは独語で専門的な文献を読解できる
- * ディスカッションを通じたコミュニケーションができる
- * 英語による基本的なコミュニケーションができる

キリスト教伝道者としての基礎力の修得（キリスト教伝道者コース）

- * キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について発展的知識を修得している
- * 世界や社会におけるキリスト教の状況、有り様についての知識を修得している
- * 新約聖書を読むためのギリシャ語の基礎知識を修得している
- * キリスト教またはその精神を实践する専門職につくための基本的技能を身につけている
- * 現代社会におけるキリスト教宣教について問題意識をもつ
- * キリスト教の福音に基づいて生の意味や規範等を広く他者に伝えようという関心をもつ

* 宗教的教養を身につけ、対話能力をもつ

キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得（専門専攻科目群）

- * 旧約聖書について発展的な知識を修得している
- * 新約聖書について発展的な知識を修得している
- * キリスト教の歴史について発展的な知識を修得している
- * キリスト教の教理について発展的な知識を修得している
- * キリスト教芸術について発展的な知識を修得している
- * 宗教一般について発展的な知識を修得している
- * キリスト教思想・文化について発展的な知識を修得している
- * キリスト教神学について発展的な知識を得る方法を用いて分析・考察を行うことができる
- * 神学研究の成果を、レポート、論文として執筆することができる
- * キリスト教神学を専門的に研究するための知識・技能を修得している
- * 人間相互の個性・多様性、文化の国際性を尊重し、良好な人間関係を形成することに関心をもつ
- * キリスト教思想あるいは文化の現代的な意味について問題意識をもつ
- * 人権問題、環境問題、生命倫理、福祉等の国際的・現代的な問題について関心をもつ

"Mastery for Service"を实践するための基礎的・発展的知識、技能の修得

- * キリスト教の福祉（ディアコニア）について基本的な知識と技能を修得している
- * キリスト教の福祉（ディアコニア）について発展的な知識と技能を修得している

神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得（自由履修科目群）

* 専門的な学問領域の枠を超えた広汎な教養および柔軟な思考方法・思考力を身につける

【文学部】

◆ DP ◆

文学部の教育理念と目的に沿って設定された様々な授業科目の中から、各学科・専修の求める専門性に従った履修体系と学生の主体的な関心に基づいて科目を履修し、必要とされる単位数を修得することが学士学位授与の要件となる。特に文学部では学修の集大成として卒業論文の作成が義務づけられている。

学士学位の取得にあたって学生に求められるのは、

- ① 人文科学の基礎的知識のもとに、人間存在とその営為について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、合理的に解決する能力を身につけていること、
 - ② 広範で多様な人文科学の学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、
- である。

◆ CP ◆

- (1) 4年間のカリキュラムを通じて、以下のような人材の育成を目指す。
 1. 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定し、これを解決できる能力を養成するとともに、人文科学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成を目指す。
 2. 広範で多様な学問領域にふれることを通じて、均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ、創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。
 3. 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人として、各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。
 4. 高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）を視野に入れながら、その基盤となる強固な学問的知識及び技能の獲得を達成し、学問的な立場から社会に貢献できる能力を養成する。
- (2) 3学科それぞれの年次毎のカリキュラムの理念は以下の通りである。

1. 文化歴史学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。

第2学年度では、学科・専修の提供する概論等の専門講義科目から将来の専門に関わる科目に重点をおいた学修を導く。さらに、資料・史料の読解・調査やテキストの解釈などを目的とする研究科目の提供を通じ、自ら読み解き理解することのできる基礎的学力を養成する。

第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、特殊講義科目、文化歴史学科他専修が提供する学科科目等を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。

第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

2. 総合心理科学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。

第2学年度では、専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、心理科学に関する専門用語の習得や英文読解力を養う研究科目、心理科学の研究方法を身につけるための実験実習科目の提供を通じて基礎的知識や技術を養成する。

第3学年度では、専修が提供する演習科目、研究科目、実験実習科目、専門講義科目を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。

第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や能力をもとに、各研究分野において学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

3. 文学言語学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深めるとともに関連する言語の修得につとめる。

第2学年度では、学科・専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、文献資料の読解や作品・テキストの解釈などを目的とする研究科目を重視して、自ら読み解き理解していくことのできる基礎的学力を養成する。

第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、専門言語科目、特殊講義科目、文学言語学科他専修が提供する学科科目等を通じて専門的な研究能力の養成を行う。

第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

【社会学部】

◆ DP ◆ (2015年度以前入学生用)

1. [態度・関心] 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心

- ①自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。
- ②現代社会やそこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている。

2. [知識・思考] 社会学を核とする幅広い学際的知識と社会学的思考力

- ①社会学を核とする幅広い学際的な知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や諸問題についての知識を身につけている。
- ②社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。
- ③社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。

3. [技能・表現] 実践的なジェネリック・スキル（汎用的技能）

- ①生涯にわたって学習するための技能（ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を身につけている。
- ②日本語および一つ以上の外国語によって、的確に理解（読み・聞き）し、わかりやすく表現（書き・話す）するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。
- ③社会調査についての基礎的な技能を身につけている。

4. [統合的能力] 総合的学習成果としての課題解決能力

上記1～3の学習成果、すなわちソシオリテラシーを総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決することができる能力を身につけている。

◆ DP ◆ (2016年度以降入学生用)

1. [態度・関心] 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心

- ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。
- ② 現代社会やそこに生きる人間、そして異なる文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている。

2. [知識・思考] 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識と思考力

- ① 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や諸問題についての知識を身につけている。
- ② 社会的な視点と思考力(社会的想像力)を身につけ、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。
- ③ 社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。

3. [技能・表現] 実践的なジェネリック・スキル (汎用的技能)

- ① 生涯にわたって学習するための技能 (ICT を用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など) を身につけている。
- ② 日本語および一つ以上の外国語によって、的確に理解(読み・聞き)し、わかりやすく表現(書き・話す)するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。
- ③ 社会調査についての基礎的な技能を身につけている。

4. [統合的能力] 総合的学習成果としての課題解決能力

上記1～3の学習成果を総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決することができる能力を身につけている。

◆ CP ◆ (2015年度以前入学生用)

社会学部では、学部教育目標を達成するために、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて、A群科目(必修科目)、B群科目(選択必修科目)およびC群科目(自由選択科目)を系統的に配置する。

A群科目(必修科目)

「キリスト教科目」(キリスト教学A・B)

主に、建学の精神に基づく基本的態度を身につける(DP-1①)ための科目

「言語教育科目(必修)」

主に、外国語によるコミュニケーション・スキルを身につける(DP-3②)ための科目

「アカデミック・プレパレーション科目」(基礎演習、社会学リレー講義A・B)

導入教育を行い、主に、社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う(DP-1②)

とともに、生涯にわたって学習するための汎用的技能を身につける(DP-3①)ための科目

「インターミディエイト・スタディーズ科目」(インターミディエイト演習)

主に、社会的な視点と思考力(社会的想像力)を身につけ(DP-2②)、より発展的な教育研究へと橋渡しする科目

「アドバンスト・リサーチ科目」(研究演習I・II、卒業論文)

学部教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決する能力を身につける(DP-4)ための科目

B群科目(選択必修科目)

「3系7領域科目」(メディア、社会表象、グローバル社会、現代社会学、ソーシャルネットワーク、臨床社会、社会心理の各領域)

主に、社会学を核とする幅広い学際的な知識と理解、社会問題についての知識と理解、グローバル

化にともなう諸問題についての知識と理解などを身につける（DP-2①）ための科目（個性と関心に
 応じた多様な学習のあり方を保証するとともに、履修モデルの提示などによって、系統的な学習を
 保証する）

「リサーチ・講読科目」（社会調査論A・Bなど）

主に、社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査の基本的な知識と技能を身につける（DP-2③、
 3③）ための科目

C群科目（自由選択科目）

「言語教育科目（選択）」、「スポーツ科学・健康科学科目」、「情報科学科目」、「AI活用人材育成
 科目」、「グローバルスタディーズ科目」、「ライフデザイン科目」、「基盤・学際科目」、「教職教
 科等関連科目」

学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目

以下の「カリキュラムマップ（概要）」は、あくまで、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の
 各項目と科目群との主たる対応関係を図示したものであり、各開講科目の到達目標（シラバスに記載）
 は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の他の項目と関係することがある。

カリキュラムマップ（概要）

			ディプロマ・ポリシーに対する関与の程度										
			1		2			3			4		
			①	②	①	②	③	①	②	③			
A 群 科 目	キリスト教科目		◎	○									
	言語教育科目（必修）								◎				
	アカデミック・プレパレーション科目			◎				◎					
	インターミディエイト・スタディーズ科目					◎							
	アドバンスト・リサーチ科目					○							◎
B 群 科 目	リサーチ・講読科目						◎					◎	
	3 系 7 領 域	メディア・表象系	メディア領域			◎							
			社会表象領域			◎							
		社会・共生系	グローバル社会領域			◎							
			現代社会学領域			◎							
	人間・心理系	ソーシャル・ネットワーク領域			◎								
		臨床社会領域			◎								
			社会心理領域			◎							
C 群 科 目	言語教育科目（選択）								○				
	スポーツ科学・健康科学科目		○	○									
	情報科学科目							○					
	AI活用人材育成科目							○					
	グローバルスタディーズ科目		○	○									
	ライフデザイン科目		○	○									
	基盤・学際科目		○	○									
	教職教科等関連科目			○	○								

備考：「グローバルスタディーズ科目」、「ライフデザイン科目」、「基盤・学際科目」…2012年度以前入学生：「学際・連携科目」

◆ CP ◆（2016年度以降入学生用）

社会学部は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、A群科目（必修科目）、B群科目（選
 択必修科目）およびC群科目（自由選択科目）を系統的に配置する。

A群科目（必修科目）

「キリスト教科目」（キリスト教学 A・B）

建学の精神に基づく態度を身につける（DP-1①）ための科目

「言語教育科目（必修）」

諸言語によるコミュニケーション・スキルを身につける（DP-3②）ための科目

「入門科目」（社会学入門 A・B、社会調査入門 A・B）

基礎的な社会的知識、社会的な視点と思考力（社会的想像力）を身につけ（DP-2①②）、社会調査についての入門的な知識と技能を身につけるための科目（DP-2③、DP-3③）

「演習科目」（基礎演習 A・B、インターメディアイト演習、研究演習 I・II・III、卒業論文）

社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う（DP-1②）とともに、継続的かつ主体的に学習するための汎用的技能を身につけ（DP-3①）（1年次の基礎演習 A・B および2年次春学期のインターメディアイト演習）、最終的に学士課程教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決する能力を身につける（DP-4）（研究演習 I・II・III、卒業論文）ための科目

B群科目（選択必修科目）

「リサーチ・メソッド科目」

社会学、社会心理学、人類学、民俗学などの研究手法を理解し、基礎から応用まで段階的に知識と技能を身につける（DP-2③、3③）ための科目

「専攻分野科目」（現代社会学、データ社会学、フィールド社会学、フィールド文化学、メディア・コミュニケーション学、社会心理学の6専攻分野）

社会学を中心に、幅広くかつ系統的な知識と理解、社会問題についての知識と理解、グローバル化にともなう諸問題についての知識と理解などを身につける（DP-2①②）ための科目

C群科目（自由選択科目）

学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目

以下の「カリキュラムマップ（概要）」は、あくまで、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の各項目と科目群との主たる対応関係を図示したものであり、各開講科目の到達目標（シラバスに記載）は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の他の項目と関係することがある。

カリキュラムマップ（概要）

		ディプロマ・ポリシーに対する関与の程度								
		1		2			3			4
		①	②	①	②	③	①	②	③	
A群科目	キリスト教科目	◎	○							
	言語教育科目（必修）							◎		
	入門科目			◎	◎	◎	○		◎	
	演習科目	○	◎	○	○		◎			◎
B群科目	リサーチ・メソッド科目					◎			◎	
	専攻分野科目			◎	◎					
C群科目	言語教育科目（選択）							○		
	スポーツ科学・健康科学科目	○								
	情報科学科目						○			
	A I 活用人材育成科目						○			
	グローバルスタディーズ科目		○					○		
	ライフデザイン科目		○							
	基盤・学際科目	○		○						
	教職教科等関連科目		○	○				○		

【法学部】

◆ DP ◆

関西学院大学法学部は、本学部設立以来の伝統である市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、及び社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の教育をつうじ社会に広く貢献できる人材を育成することを目的としてディプロマ・ポリシーを定める。所定の年限在学し所定の単位を修得し、下記の知識や能力あるいは技能などを習得したと認められる本学部生に、学士号を授与する。

1. 【関心・意欲】法学や政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。
2. 【知識・理解】広い社会的視野と教養を有し、法学または政治学の専門的知識を修得している。
3. 【技能・表現】グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。
4. 【思考・判断】課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法律学科学生においては法的思考（リーガル・マインド）を、また政治学科学生は市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている。

◆ CP ◆

法学部は、ディプロマ・ポリシーに明記されている人材養成目標を達成するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。

1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目
 2. 専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目
 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目
 4. 基礎的な学修技能を習得することができる科目
 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目
- 以上の5つを柱に、カリキュラムを編成し、実施する。

【経済学部】

◆ DP ◆

【関心・意欲】

- ・世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。
- ・他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。

【知識・理解】

- ・経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。
- ・日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけている。

【技能・表現】

- ・基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。
- ・日本語および1つ以上の外国語の修得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。

【判断・問題解決】

- ・経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。
- ・現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。

◆ CP ◆

経済学部は、経済学士を授与するにあたり、学生に求める【関心・意欲】、【知識・理解】、【技能・表現】、【判断・問題解決】を育むため、下記のカリキュラムを編成し、これを実施する。

【関心・意欲】

高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。

【知識・理解】

日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるための「専門基礎科目」を配置する。これは、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された基礎科目、入門科目、分析ツール科目からなる。この「専門基礎科目」の履修の上に、多くの学生が履修すべきコース標準科目、さらに発展的な学習を目指す、コース応用科目からなる「専門科目」を配置する。さらに、コースでの学習を相互に関連付けるコース関連科目を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。

【技能・表現】

情報処理を基礎とする経済統計やデータ分析能力を育む情報科学科目、分析ツール科目を配置し、また、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目、中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、少人数による研究演習科目も含む、コース関連科目を配置する。

【判断・問題解決】

現代の複雑な経済・社会現象を理解し、直面する問題を発見しその解決のための判断能力を育み、学生が自らの生き方や仕事について考える機会をつくるライフデザイン科目を置く。また、コース標準科目、コース応用科目などの「専門科目」、さらには、これらの科目で得た経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による研究演習科目などを配置する。

【商学部】

◆ DP ◆

商学部は、「隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛える」という内容を示す関西学院のスクールモットー“Mastery for Service (奉仕のための練達)”のもと、次の能力等を有する「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成 (Fostering Creative Minds for Business)」を教育理念としている。

【基本的意識と姿勢】

- ・知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。

【基本的思考と判断】

- ・現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。
- ・問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。

【知識と技能】

- ・商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。

このような教育理念に基づき、本学部は、学則に定められた期間在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に、学士（商学）を授与する。

◆ CP ◆

商学部は、キリスト教主義による人間愛の精神を涵養し、一般教養による人格形成を図り、専門知識を身につけ国際化時代・情報化時代である今日の社会に貢献できるビジネスパーソンを養成するため、カリキュラムの編成に当たって、以下①～⑤の5本の柱を立てる。

①ビジネスパーソンとしての一般教養の修得

専門知識に偏らない一般教養やビジネスの背景的知識を提供する。

- ②ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得
ビジネス全般に関する基礎的知識を体系的に提供する。
- ③ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得
ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設け、各分野の高度な専門的知識を体系的に提供する。
- ④ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得
学生・教員間の学問的・人格的な接触を通じて学習する演習型科目を提供する。
- ⑤ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得
外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供する。

【理工学部】

◆ DP ◆

関西学院のめざす人間像である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成するために、自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
 - (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
 - (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。
2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性
 - (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
 - (2) 専攻分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
 - (3) 専攻分野における基礎的な技能を修得している。
 - (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
 - (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。
3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力
 - (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
 - (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。
4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

◆ CP ◆

理工学部における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、言語教育科目、自由選択科目にて構成し、専門教育科目は各学科専門の基礎的科目、発展的科目、実験・演習科目、卒業研究科目（数理科学科は特別演習）、自由選択科目にて構成する。各科目群については理工学部ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

【総合教育科目】

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「言語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「自由選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

【専門教育科目】

「基礎的科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展的科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「実験・演習科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「卒業研究科目（数理科学科は特別演習）」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「自由選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

【総合政策学部】

◆ DP ◆

総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。

この目標を実現するための教育として、まず、人が生きていく場としての「環境」、維持すべき社会としての「公共」、ならびに思考がよって立つ「言語・文化」に関わる政策を基礎とします。そして、さらに現代社会の危機と可能性を踏まえて、経済・社会活動の場として重要性を増す「都市」、相互影響と関係性がさらに深まりつつある「国際」、そして急速な技術革新のもとで社会を変革しつつある表現手段としての「メディア」に関わる政策に着目します。

学生は、これらの様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。

・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。

・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。

・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。

・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

◆ CP ◆

<基本ポリシー>

- (1) キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
- (2) 学びの起点
「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally Act Locally」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
- (3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
- (4) 各分野における実務的専門的技術の獲得
各学科、各分野における必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオン・ラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通じた学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座(学部研究会と呼んでいます)も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
- (5) 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
- (6) 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。

<4年間のカリキュラムの流れ>

- (1) 1年次にはキリスト教教育および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1年次の終わりに学科を選択します。
- (2) 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。なお、一級建築士の資格修得を目指す建築士プログラムも2年次から始まります。
- (3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズオン・ラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また一級建築士や各種教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。
- (4) 上記を踏まえて、各学科では次のような教育課程の編成・実施方針を定めます。
総合政策学科では、広範で多様な知識と政策の理論を学びつつ、それらを環境政策・公共政策・言語文化政策の3つのフィールドで現実の政策に応用していくための専門知識・技能・態度を修得する科目群を設置しています。
メディア情報学科では、人間を中心に据えた情報技術や社会のあり方を総合的に考え、情報技術を通じて実現するため情報社会政策、メディアと情報通信技術に関する専門知識・技能・態度を習得する科目群を設置しています。
都市政策学科では、快適で安全な都市空間をデザインするための基本的な考え方とそれを実現するための設計技術、都市空間を適切にマネージするための都市経営政策など、都市空間を計画・創造・運営するための専門的知識・技法・態度を習得する科目群を設置しています。
国際政策学科では、国際機関や多国籍企業などグローバルレベルで活躍できる人材の育成を目指し、グローバルな視点からの政策を立案し、分析するための専門知識・技能・態度を習得する科目群を設置しています。

【人間福祉学部】

◆ DP ◆

1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている
2. 人間と社会とその相互作用に関する基本的知識を身につけている
3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる
4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる
5. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる
6. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる

◆ CP ◆ (2011年度以前入学生用)

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）
 - (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
 - (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
 - (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
 - (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
 - (5) 多様な文化に関心を持ち、それを理解する態度を身につけている
 - (6) ワードプロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる
 - (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
 - (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる
 - (9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べるることができる
2. 人間福祉学部の共通基盤に関する知識・技能・態度の修得（専門共通科目）
 - (1) 人間と社会とその相互作用について理解している
 - (2) 人間性と社会連帯に関する関心と課題解決への意欲をもっている
 - (3) 人間社会の多様性を広い視野から理解している
 - (4) 社会福祉とソーシャルワークに関する基礎的知識を身につけている
 - (5) 近代的社会制度に関する基礎的知識を身につけている
 - (6) 「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための基礎的知識を身につけている
3. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会福祉学科専門科目）
 - (1) 日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している
 - (2) 日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している
 - (3) ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている
 - (4) 専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている
 - (5) ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている
 - (6) 社会福祉およびソーシャルワークの視点で、社会現象をとらえることができる
 - (7) 社会福祉学の研究課題に関して、資料を検索し、課題を整理し、調査または実践を計画し、調査または実践結果の分析をおこない、レポートまたは論文が書ける
4. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会起業学科専門科目）
 - (1) 多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている
 - (2) グローバルな視点について理解している
 - (3) 社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している
 - (4) 社会起業の理念に関する基本的知識を理解している
 - (5) 社会起業の基本的概念を理解している
 - (6) 社会起業の実践のための専門的な知識、技法、経験及び態度を身につけている
 - (7) 社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている

(8) 社会起業の研究課題を発見し、情報収集し、分析する能力を身につけている

5. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得（人間科学科専門科目）

- (1) 「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている
- (2) 人間のライフコースの各段階（乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期）における課題や理論について「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から理解している
- (3) 人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している
- (4) こころ（スピリチュアリティ）についての専門的知識と援助技術を身につけている
- (5) 身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている
- (6) 人間科学の研究課題に関する実験、測定、調査、あるいは実践を行い、レポートまたは論文が書ける

6. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（関連共通科目）

- (1) 他学科・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる
- (2) 他学科・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

◆ CP ◆ （2012年度以降入学生用）

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）

- (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
- (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
- (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
- (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
- (5) 多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている
- (6) ワードプロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる
- (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
- (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる
- (9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べるすることができる

2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会福祉学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している
- (3) 日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している
- (4) ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている
- (5) 専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている
- (6) ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている
- (7) 社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、関連領域の視点も活用しながら実践方法を考えることができる

3. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会起業学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている
- (3) グローバルな視点を身につけている
- (4) 社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している
- (5) 社会起業の理念に関する基本的知識を理解している
- (6) 社会起業の基本的概念を理解している
- (7) 社会起業の実践のための専門的知識、技法、経験及び態度を身につけている
- (8) 社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている
- (9) 社会起業に関する情報の収集と活用に必要な知識、技法、経験を身につけている。

4. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得（人間科学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている
- (3) 人間のライフコースの各段階（乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期）における課題や理論について「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から理解している
- (4) 人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している
- (5) こころ（スピリチュアリティ）についての専門的知識と援助技術を身につけている
- (6) 身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている

5. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）

- (1) 学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている
- (2) 学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける

6. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）

- (1) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる
- (2) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

【教育学部】

◆ DP ◆ （2012年度以前入学生用）

1. 「子ども理解」を深めている。
「子ども理解」とは乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解し、乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解していることである。
2. 「実践力」を身につけている。
「実践力」とは幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた実践にあたることのできる資質である。
3. 「教育力」を身につけている。
「教育力」とは高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの支援ができる資質である。
4. 「人間力」を身につけている。
「人間力」とは総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。
5. 幼児・初等教育学科の学生は、「子ども理解」を基本理念として、知的な教授・学習に加えて、心の側面を含めた全人的人間理解を持って教育を行うことができる。
6. 臨床教育学科の学生は、「子ども理解」の基礎となる教育学（教育人間学、教育方法学、教育社会学）の知識と方法に教育相談と特別支援教育の知識と技術を加え、子ども、保護者、教師への支援の在り方を理解し、理論と方法を統合しつつ問題にかかわることができる。

◆ DP ◆ （2013年度以降入学生用）

【関心・意欲・態度】

- ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身に付けている
- ② 教育に対する強い情熱や子どもへの愛情をもった態度で、幅広い教育現場で実践に臨むことができる

【思考・判断】

- ① 幅広い教養に基づいた判断力と広い視野を持っている
- ② 専門的知識の習得や他者との学び合いから思考を発展させることができる
- ③ 人権意識をもった行動ができる

【技能・表現】

- ① 子どもや教育に関する課題を発見し、取り組み、解決できる
- ② 専門性の能力を活用して子どもへの教育と支援ができる
- ③ 日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に付けている (KG 学士力を参考)

[知識・理解]

- ① 乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解している
- ② 乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解している

◆ CP ◆ (2012年度以前入学生用)

教育学部は、総合教育科目と専門教育科目をおく。総合教育科目は、キリスト教科目、言語教育科目、情報科学科目、教養教育科目から構成される。専門教育科目は、学部共通専門教育科目、幼児・初等教育学科専門教育科目（学科共通専門教育科目、幼児教育コース専門教育科目、初等教育コース専門教育科目）、臨床教育学科専門教育科目（臨床教育学コア科目、教職関連科目）から構成される。

1. 「子ども理解」については、学部共通専門教育科目において、教育、保育、子ども文化など幅広い視野で、子どもの総合的な理解を目指す。
2. 「実践力」については、実習科目を重視し1年次から4年次まで各種の実習を行う。
3. 「教育力」については、各教科教育法や保育内容、教育相談や特別支援教育にかかわる科目などを開講することによってその養成をはかる。
4. 「人間力」については、主に「総合教育科目」及び少人数による各種の演習を通して、問題解決能力や人間関係にかかわる資質能力の育成をはかり、総合的な判断力を培うことを目標とする。
5. 国際的な連携や異文化理解に関する科目を開講し、国際的な視野を持った「教育者」の養成を目指す。
6. 幼児・初等教育学科のカリキュラムは、「子ども理解」を基礎においた教育学の基本的な領域の科目、教員・保育士養成の内容領域の科目、及び各種の実習を設け、「実践力」、「教育力」それに「人間力」を兼ね備えた教員・保育士を養成すべく編成されている。また、教員・保育士を目指さない学生にとっても、「子ども理解」を核としたカリキュラムを履修することで、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる知識と技術を身につけることができる。
7. 臨床教育学科のカリキュラムは、教育学の基本科目群と、教育相談、特別支援教育に関する実践的科目群、加えて、これらの科目群双方にかかわる、教育調査法と実習科目を配置し、教育活動における問題解決の方法や支援の在り方を教育学の臨床場面として捉え、教育学と臨床心理学双方のアプローチによる理論と方法を統合しつつ問題にかかわることができる「教育者」を育成すべく編成されている。

◆ CP ◆ (2013年度以降入学生用)

教育学部は、学部の教育目標を達成するために学位授与の方針 (DP) に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。

総合教育科目

[キリスト教科目]

建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもたせるための科目

[言語教育科目]

外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目

[情報科学科目]

コンピュータ・リテラシーの基礎を学ぶための科目

[教養教育科目]

教育学研究の基礎となる幅広い教養と知識を身につけるための科目

専門教育科目

[学部共通専門教育科目]

基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に置ける学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教育の基礎的理解に関する科目等のうち全学校種に共通して必要な科目、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目

[幼児教育コース・初等教育コース共通専門教育科目]

小学校教員免許取得に必要な教科及び教科の指導法に関する科目のうち幼稚園教員免許のための領域及び保育内容の指導法に関する科目とすることが可能な科目

[幼児教育コース専門教育科目]

幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目

[初等教育コース専門教育科目]

小学校教員免許取得に必要な科目

教育科学コース専門教育科目

[教育科学コースコア科目]

教育科学の諸領域について学ぶための科目

[教育科学コース教職関連科目]

中学校・高等学校の教員免許取得に必要な科目

◆ カリキュラムマップ：DPと各授業の到達目標との対応表 ◆ (2013年度以降入学生用)

		ディプロマ・ポリシー関与度												
		関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解				
		①	②	①	②	③	①	②	③	①	②			
総合教育科目	キリスト教科目	◎		○		○								
	言語教育科目				○					◎				
	情報科学科目								◎					
	教養教育科目	○		◎		◎							○	
専門教育科目	学部共通専門教育科目	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎			
	幼児教育コース・初等教育コース 共通専門教育科目		○		○		◎	○		◎	◎			
	幼児教育コース専門教育科目		○		○		◎	○		◎	◎			
	初等教育コース専門教育科目		○		○		◎	○		◎	◎			
	教育科学コース 専門教育科目	教育科学コースコア科目		○		○		◎	○		◎	◎		
		教育科学コース教職関連科目		○		○		◎	○		◎	◎		

【国際学部】

◆ DP ◆

国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）を編成・実施している。これに基づき、本学部は、学生が

所定の期間在学し、教育課程上の所定の科目を修得することで、学生自身が身につけた次のような学士力を評価し、学士（国際学）の学位を授与する。

1) 国際事情に関する課題の理解力と分析力

世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し、分析できる。

2) 問題発見解決能力

主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる。

3) 異文化理解・多文化共生能力

異文化に対する感受性をもち、多様な文化と共生できる。

4) 倫理的価値観

キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得している。

5) 言語コミュニケーション能力

外国語能力を生かし、積極的に発信できる。

◆ CP ◆

国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）の編成方針を以下のように定める。

本学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、国際基礎科目、国際専門科目、領域関連科目、自由履修科目とする。国際基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。国際専門科目は、共通科目、北米研究コース科目、アジア研究コース科目、研究演習科目とする。

本学部の学生は、英語、そして日本にとって物的・人的交流が盛んな主要地域で使用されている中国語・朝鮮語を第1外国語として集中的に修得する。また、世界における様々な地域には、異なった文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から学際的に理解し、分析できるようになることである。そのため、専門科目を大きく3つの領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に分け、国際社会、国際事情に関する幅広い知識の習得を行う。

異文化理解と自国文化の理解は互いに不可欠である。そのため、本学部では日本の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などに関する諸科目も開講することで、自国文化の歴史的・同時代的考察を促す。また、英語の運用能力を高めるため、また外国人留学生に対応するため、英語で行う授業科目を、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各領域、北米、アジアの各研究コースに配置する。

- ①キリスト教科目、宗教、哲学・思想、人権などに関する科目を提供し、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養う。
- ②4年間を通じてひとつの外国語を重点的に学ぶことができるカリキュラムを用意し、他の言語の学習機会も広く提供し、「言語コミュニケーション能力」を養う。また、国際基礎科目、国際専門科目に英語で行う授業科目を配置する。
- ③海外留学によって、「異文化理解・多文化共生能力」および「言語コミュニケーション能力」を養う。海外留学としては、短期留学（約1ヶ月）、中期留学（3ヶ月～半期）、長期留学（半期～1年）の他、関連する留学プログラムを位置づける。
- ④国際専門科目担当の専任教員全員は、原則として各自の研究専門領域科目とともに研究演習科目を担当し、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営領域の学際的学習と、少人数教育を通じて、「問題発見解決能力」を養う。
- ⑤文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各分野に関する基礎的な科目と国際的な科目を提供し、世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し分析できるようにし、「国際事情に関する課題の理解力と分析力」を養う。

以 上